

農業への 参入事例



農業者と共にかごしまブランド産品で農業参入

有限会社松田農場 薩摩川内市：建設業

経営概況

きんかん1.2ha（うちハウス1.1ha）

労働力：常時雇用1人，臨時雇用30人

農業参入の動機・事業展開の特徴

○参入の動機

- 1 以前から興味があった農業を学ぶため，県主催のかごしま営農塾（夜間塾）に参加し情報を収集した。
- 2 農業を営む同級生との視察・研修や関係機関の助言・指導を受けながら，平成17年3月に農業法人を設立することとした。
- 3 当初，経営作目は水耕栽培を検討したが，市・県の助言を受けて，かごしまブランドに指定されているハウスきんかんを選定した。

○特徴

1 農地の確保及び施設の導入

- ① 農地は一部所有地に客土して造成を行ったほか隣接農地を取得した。
- ② 施設は経営試算をしながら市や県と協議し，補助事業を活用しハウス・暖房機を整備した。

2 生産技術の習得

- ① きんかん栽培の経験が無かったため，視察研修の実施や地域の農業者，県・市・JAからの指導等を受けながら技術習得に努めた。
- ② 現在は，IPM栽培に取り組み，年間40tを生産している。食品分析では，平均的なきんかんより抗酸化力が約1.7倍，Brix糖度が約1.2倍で，食味評価は5段階のうち最高の5の評価を受けている。
- ③ 平成25年に，きんかんで全国初のJGAP（工程管理に基づく品質保証）認証を取得した。



収穫直前のハウス内の状況



摘果や収穫はパートで対応



JGAPの認証を受けたきんかん

農業参入してよかったこと、今後の展開

- 農業参入し，かごしまブランド品目に取り組むことで，地域の雇用や観光に貢献でき，消費者からも高い評価をいただくようになった。
- 農業参入前に1年間かけて視察や研修，地域の大規模農家や県・市からの情報収集等，導入作目の選定等を行い，実現可能な事業計画を立てた。

地域の特産物の栽培から6次産業化に発展

有限会社西田農産 西之表市：建設業

経営概況

さつまいも（安納いも）75ha，早期水稻 13ha，さとうきび 8ha，たまねぎ 2ha
労働力：常時雇用（社員）38人，外国人材 11人（特定技能 3人 技能実習生 8人）
障がい者就労支援事業所からの施設外就労 5人

農業参入の動機・事業展開の特徴

○参入の動機

平成14年をピークに公共事業が減少したため，従業員の雇用を守り，企業としての生き残りをかけて農業生産法人を設立し農業に参入。

○特徴

1 農地の確保方法

- ① 自作地は一部で，大部分は高齢農家等からの借地。
- ② 作業能率を考慮し，1ha以上が見込まれる農地を確保。
- ③ 狭い農地や耕作放棄地と隣接した農地は，地権者や農業委員会と協議して利用権を設定。畦畔を除去して1区画の面積を広くして利用。

2 労力確保

① 農福連携

平成26年度から，障害者施設と連携し農福連携をスタート。さつまいもの収穫・加工作業等に従事していただいている。

② 外国人材

平成27年度から，外国人材の受入を実施。技術から日常生活まで指導・相談体制を整えている。

3 農産物の販売，販路の確保

青果用として出荷する安納いもはさつまいもチップに，また，石蔵貯蔵庫で熟成したものは，炭火焼き釜，冷蔵庫の整備により，冷凍焼きいも，ペースト，安納芋グラッセ等に加工され，好評を得て販路も拡大している。



広大なさつまいもほ場。集積された農地は，地域からの信頼のたまもの



さつまいもと組み合わせた，たまねぎ栽培



6次産業化に向けて加工品を開発（安納芋グラッセ）



障がい者による選果作業

農業参入してよかったこと，今後の展開

- 従業員の働く場が確保でき，地域住民に雇用の場を提供し，地域の活性化に貢献できた。
- 今後は，基腐病を早期に克服し，更なる経営の拡大を図りたい。

